

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2271100791
法人名	有限会社ライフケアセンターよつば
事業所名	グループホームはづき
所在地 (電話番号)	沼津市東間門字中溝616-1 (電話) 055-952-6667
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(2008年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有(75,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:5ヶ月)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		2名	要介護2		1名	
要介護3		3名	要介護4		2名	
要介護5		名	要支援2		1名	
年齢	平均	85.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原医院・亀井歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺に工場や会社が多い環境の中、地域に密着した介護を提供するホームを目指している。管理者は人材育成に力を入れ、研修で技術向上を目指す職員をサポートし、相談にも乗っている。また、これから起こるであろう入所者のレベル低下についても前向きに考え、全職員で対応できる手段を模索している。常に「御本人の人格を尊重し常に一人ひとりの立場に立ったサービスの提供」という理念をもとに行動することを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の共有と日々の取り組み、職員の育成、重度化や終末期に向けた方針の共有等、前回評価の改善項目について職員全体で取り組もうとしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回までは運営者及び管理者のみが自己評価に取り組んでいたが、今回は職員全員で取り組み、一人ひとりが入所者にとって必要なサービスを明確にできた。外部評価については常に職員や家族にも評価結果を確認してもらい、改善に向け職員全員で前向きに取り組んでほしい。</p>
	重点項目	②
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1度のお便りを職員が順番で作成し、家族に送付しており、それに施設での本人の様子や近況を付け加えている。その際家族に対する表現に失礼のないよう管理者が目を通すようにしている。日頃から面会に来た家族と話しやすい雰囲気を作るよう努力している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所には会社や工場が多く、地域との関係作りは難しいが、自治会に入ったり、玄関を常に開けて、地域に溶け込む努力をしている。今後も自治会の河川清掃等に積極的に関わることで地域住民にホームのことを広める努力を期待する。また中学校が近いので中学生の受け入れ等も働きかけたい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自信をもって暮らし、現役としての人生を支えていくことを独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を常に職員と話し合い、実践できていない部分を確認するよう努めている。また、利用者の思いを十分理解した上で、管理者が中心となり、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っているが、事業所の周りには会社や倉庫等が多く、近所の方との交流範囲は限られている。	○	近隣の中学校や事業所との交流を通し、地域との交流を進めていくよう努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員が評価票を記入することで、現在の状況を把握する良い機会となった。	○	評価により、課題を明確にし、改善策を全員で話し合うことでサービスの質の向上に向け、取り組む機会とされたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において提案された認知症に関するサポーター養成講座を地域公民館で実施し、多数の受講者を得ることでグループホームへの理解につなげる努力をしている。また回を重ねるごとに活発な意見が出るようになってきている。	○	運営推進会議のメンバーに地域の方や利用者の家族にも参加をお願いし、色々な意見を取り入れ、話し合われた内容や結果を参加者以外(職員・家族)にも提示されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>沼津市グループホーム連絡協議会を立ち上げ、市の担当職員との関わりも深まりつつある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>写真付きのホーム便りを発行し、家族に送付している。その時に一人ひとりのエピソードや行事に対しての利用者の感想等を書き添えている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時には利用者の日常生活を話して、意見や要望等確認している。また運営推進会議に家族に参加をお願いして意見をもらっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職する職員はなく、利用者とのなじみの関係が築けている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は管理者や職員のために必要な研修の機会を積極的に取り入れ、勤務内で参加できるようフォローしながら職員の介護の技術向上に努力している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列内事業所と情報交換や連絡を取り合っている。また沼津市グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所の見学を行い、良いところを学び取り入れている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者は入居予定者の情報を職員と共有するよう努めている。	○	認知症高齢者にとって環境の変化は負担が大きいため、少しずつ慣れるための体験入居等のサービスの導入も検討されたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から本音が引き出せるよう場面づくりや関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の気持ちを把握するために、意思表示ができない利用者に対しては根気強く接し、本音を言える関係づくりに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時は利用者や家族を交え、協力や理解をお願いしている。利用者のレベル低下に備え職員全員で携わる介護の必要性を認識し、計画作成の課題としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の訪問時に話し合い、要望を聞き、本人の現状を考慮した上で見直しを行っている。	○	介護計画の見直しの手順を定め、定期的に行う体制づくりを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者がレベル低下している現状を踏まえ、園芸や農作業等を通じ残存機能に働きかけ、役割や価値をもたらし、認知症の進行状況の緩和に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はホームのかかりつけ医を利用しているが、利用者や家族の希望に応じ、他の医療機関も利用可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医は、家族との話し合いに参加し、説明や確認等協力している。同系列の施設利用も含めた話し合いもされている。2件の終末期の実例があり、今後も状況により話し合いながらの対応の準備をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	開設して五年が経ち入所者のレベルが徐々に下がってきているが、常にご本人のプライドを傷つけない声掛けを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自由にホーム内で過ごし、職員もさりげなく目を配り、本人らしく暮らせる支援や見守りを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が配膳・食器の片付けを行い、できる人は食器洗いを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日や時間が決まっているが、一人ひとり無理強いをせず、利用者の希望に沿って入浴が楽しめるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の新聞を取りに行くことや洗濯物をたたむこと等の当番がある他、習字、工作、手芸等一人ひとりが無理なくできることに取り組み達成感を味わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	系列の施設へ遊びに行ったり、地域のお祭や花火大会に参加し利用者に好評である。また草取りやペンキ塗りなど利用者のできる範囲内で行いながら、外出の機会を持てるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。朝は利用者が新聞を取りに行きながら鍵を開けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は毎年1回行っている。ホーム主催の講演会を開催したことで近隣住民にホームのことが周知されてきている。	○	近隣の方に訓練に参加してもらえるよう働きかけ、相互の協力体制の構築につなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の献立を参考に、利用者に合わせて主食や副菜の量を変えたり、水分を摂りたがらない人のためにゼリーを用意している。	○	栄養士による栄養バランスの確認や、定期的に体重測定を行い、食事量の過不足の確認に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾る等季節感のあるものを共用空間に配置したり、廊下の壁にベンチを配し、ホーム内で利用者が居心地よく生活できるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、利用者の使い慣れた物の持参をお願いしている。居室には家族の写真や使い慣れたタンスなどが置かれている。自分のものに固執しない利用者には、その人らしい居室作りを職員が一緒になって協力している。		